



当日の展示プログラム紹介



広島市立基町高等学校の生徒と被爆者との共同制作による「原爆の絵」

広島市立基町高等学校創造表現コースでは、原爆被害の実相を後世に伝えていくために、被爆体験証言者とともに「原爆の絵」の制作に取り組んでいます。この取り組みは、被爆者が高齢化する中、被爆の実相を絵画として後世に残すことや、絵の制作を通して、高校生が被爆者の思いを受け継ぎ、平和の尊さについて考えることを目的に行われています。今回は全35点の複製原画を展示しました。



企画展示「伊勢原市の戦争と平和の記憶」

本市は平成26年度から、東海大学水島研究室と協働し、戦争体験インタビューや、市内の風景に残る戦争の記憶に焦点を当てた「平和ドキュメンタリー映像」などを制作しています。今回はその取り組みにフォーカスし、伊勢原市の戦争と平和の記憶を辿る展示を行いました。



市民団体コーナー（いせはら市民平和実行委員会）

いせはら市民平和実行委員会による「いせはら市民平和展」が行われました。

委員会が制作したパネルや、戦争に関する史料の展示のほか、千人針を体験できるコーナーも設置されました。



令和6年度 中学生平和作文 受賞作品

伊勢原市では、広く市民の平和意識を啓発することを目的に、市立4中学校の3年生を対象に「中学生平和作文」を募集し表彰しています。令和6年度は、応募総数742点の中から、優秀賞8点、佳作8点が入賞しました。

25日（日）には、受賞者の表彰式も執り行いました。



令和6年度 中学生ヒロシマ平和の旅 参加報告

伊勢原市では、次代を担う若年層の平和意識を啓発することを目的に中学生平和の旅派遣事業を行っています。

今年度は平和作文の受賞者8名が「中学生ヒロシマ平和の旅派遣団」として平和記念式典への参列や、平和記念資料館の見学、同年代の仲間との平和に関するディスカッション等を行いました。

当日は、中学生が広島で学んだ事をまとめた掲示物を展示しました。



映像コーナー

伊勢原市では、平成26年度から東海大学文化社会学部広報メディア学科・水島研究室と協働し、平和史料収集・公開事業に取り組んでいます。映像コーナーでは、これまでに作成した「戦争体験インタビュー」や、令和2年度から作成した平和ドキュメンタリー映像「伝えたい想いを乗せて」を放映しました。

「伝えたい想いを乗せて」は、戦争の記憶を風化させることなく平和の尊さを次世代へ伝えることを目的に、市内各地の石碑や建造物などに宿る戦争の記憶に焦点を当て制作した映像作品となっています。

